

1 日時：令和 3 年 1 月 23 日 (土) 14:00 ~ 16:30

2 場所：ZOOM によるリモート会議

3 リモート出席：(常)森修次、(常)笠原勉、(常)平野滋、(常)綿貫啓、(常)永井和典、(常)庄司大介、太田芳雄、星崎紀一、畑恭子、久一博世、今村均、桜井裕一、中村憲一、(常)齋藤寛(記録)  
(常任幹事 7 名中 7 名出席) 委任：、中島輝正 (幹事 1 名委任)

4 打ち合わせ内容

① 土木工学科・建築学科リモート講義の報告

- ・リモート講義は相手の表情が見えず、質問もなく手応えがない印象だったが、メッセージ発信では有意義だった。
- ・土木工学科の学生アンケートではよかったという意見が多かった。二回を通して概ね成果があったと思う。
- ・建築学科は企業 PR と望星技術士会のタイアップで実施した。参加した学生には好評であった。

② 会報編集作業の進捗状況・課題について

- ・2月1日を寄稿の締切にしているが、既にいくつかの原稿が届いている。
- ・「会員の一言」コーナーでは 33 名の返信があった。
- ・「インタビュー」コーナーは吉田先生にお願いする。

③ 令和 3 年度総会の開催について

- ・コロナ対応に関連し大学から同窓会活動の方針が出されている。政府や自治体の行動指針に基づくとなっている。
- ・開催はメール総会もあるが、Zoom によるリモート開催を検討。
- ・講演は吉田先生にお願いする。会長挨拶、土木と建築の先生の挨拶、同窓会役員の高橋宏さんにも挨拶をお願いする。
- ・議事事項に、会則改定、役員改選 (任期迎える) を準備、活動資金確保を加えるかどうか検討が必要。
- ・任期となる副会長、事務局長は 1 期で交代とせず (再任)、人員を増やして分担、引継ぎを円滑化すべき。会員は工学部、海洋学部ほぼ半々であり、会員規模に見合う執行体制を考える。
- ・会計は今年度ほとんど支出はない。

④ 活動資金の確保について

- ・これまでは会員の任意の寄付金、個別イベントの余剰金留保によって活動資金を確保してきた。その用途は本会設立の趣旨に則って学生及び会員の資格取得、技術の研鑽と会員の交流などに資する活動のためである。
- ・本会として寄付金又は活動協力金の位置づけを明確にするとすると、総会の議案とする必要がある。一律の会費制はふさわしくない。今年度活動がほとんど止まって、支出がない状況。従来のとおり任意の寄付をお願いすることとし、会報にも記載する。

⑤ 入会申込みグーグルフォーム運用、会員名簿の活用について

- ・グーグルフォームを活用し、入会申込み情報管理の効率化を図る。本会として独自のサーバーによる HP を作成し、会員向けに積極的な情報発信 (会員名簿公開など) の環境整備まで考えるか検討が必要。
- ・本会 HP の活用に対する会員ニーズとして、どのような事柄がどの程度存在するかを知ることも必要。

⑥ その他

- ・「技術士補」の名称に誤解がある。技術士補は第 1 次試験に合格し (修習技術者となる)、指導技術士をつけて日本技術士会に登録した者のことである。正式な技術士補は合格者の 1.6% と少ない状況。表現に注意が必要。
- ・本会の若い技術士入会拡大に向け「技術士取ったら是非ご連絡を」のメッセージ発信を検討 (東海大学新聞など)。
- ・土木工学科、建築学科のリモート講義のレポートを本会 HP にトピックとして掲載する。
- ・本会は東海大学同窓会公認の任意団体であることを確認した。同窓会 HP に本会 HP をリンクさせてもらった。
- ・1月30日 (土) に大技連の総会があり、新幹事校となる。
- ・日本技術士会の年会費が 4 月から改定され、20 代・30 代は 10,000 円、40 代は 15,000 円、50 代・60 代は現状維持 20,000 円、70 代以降は 18,000 円となる。
- ・モーリシャスの貨物船座礁重油流出事故について政府調査団にサンゴの専門家藤原秀一さん (本会会員：海洋工学科 1973 年卒業) が参加した。今後講演者として期待する。

5 次回役員会 令和 3 年 2 月 27 日 (土) 14:00 ~ ZOOM によるリモート開催とする。